

經 濟 学 部

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51101 51901	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通年	川 崎 勝
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代日本経済史の基礎研究

【講義内容】 経済史に限らず歴史の研究には、史料の収集と解説、その分析が不可欠である。古い時代に作成された史料は、墨筆の草書体で書かれたものや、活版印刷されたものでも用語・文章など、難解なものが多い。そこで、最も基本となる史料（活字化されている）を読みながら、用語や文体に少しずつ慣れて、史料の内容を把握するための基礎訓練を行う。

【講義計画】 テキストの「Ⅱ 時期別資料」の史料をテーマごとに読みながら、それぞれの時期の経済史を中心に、政治史・社会史・文化史の領域にいたる広い視野のもとに研究していく。
 1. テキストを各自にテーマごとに割り当てて、報告・討論をする。
 2. 報告者（テーマによって1～3名）がレジュメ（内容は要旨と重要用語解説）を配布し、音読・内容説明をする。
 3. 全員で質疑応答・討論をする。
 4. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメ（要旨・用語解説）を用意して時間終了後に提出する。
 演習は学生が自主的に運営するものであるから、初回に一年間のすすめ方について、十分に討論してもらう。合宿などについては、相談して決める。

【評価方法】 1. 演習での報告・発言の内容と、毎時間ごとに提出するレジュメ。
 2. 前期・後期終了時に、指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 安藤良雄編『近代日本経済史要覧〔第二版〕』（東京大学出版会、1979年）
 〈辞書〉
 史料には、現在使われていないもの、意味の異なる用語が頻出するので、たえず辞書を引く必要がある。おっくうがらずに、用語を一つずつ確かめる癖をつけること。演習の準備に不可欠の辞書をあげておく。
 [図書館でみるもの]
 『大漢和辞典』 諸橋轍次編 全12巻、大修館書店
 『日本国語大辞典』 全10巻、小学館
 [個人で演習に持参するもの]
 『角川新字源』 小川環樹他編 角川書店
 （これは、別のもの・すでに持っているものでもかまわない。）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51102 51902	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通年	近 藤 仁
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 身近な物価について考えてみよう

【講義内容】 最近の物価の動向から、物価はどうして決まるか。なぜ日本は外国に比べてものが高いという内外価格差問題が生じるのか、またその解消のためにはどうすればよいのか、あるいは政府の物価安定策はどのようなものか等についての問題を、ミクロ経済とその背景にある現実経済との関係から考察する。
 また、後期にはコンピュータを用いて現実のデータを分析する手法を身につける予定である。

【講義計画】 前期は、日本の物価問題を取り上げ、講義内容で述べた問題について議論することにより、現実の経済がどのように動いているのかを理解する。数人ずつのグループに分け、報告分担を決める。グループで調査・研究したものを報告し、全体で議論し、各自の理解を深める。また、時事グループによる新聞記事の解説から、経済問題を認識する力を養う。
 後期は、コンピュータソフト（EXCEL）を使って、現実のデータを分析する基礎的手法を学習する予定である。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、報告内容・質疑応答・レポート提出あるいは演習における役割の遂行状態と、

すべての経済演習Ⅰの共通課題となっている書評・修了論文により、総合的に評価する。

- 【テキスト】 経済企画物価局編『物価レポート'97』（経済企画協会、1997）
コンピュータ関係については、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51103 51903	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通年	水 谷 重 秋
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 社会科学研究入門

【講義内容】 高齢者福祉、地球環境、自動車公害、原子力発電、規制緩和、日本版ビッグバンと金融危機、財政危機、日本経済の空洞化、日本型雇用の現状と将来、会社人間と過労死など、現代におけるさまざまな経済・社会問題のなかからいくつかの問題を学生に選ばせ、それらの問題点と解決法を考えさせる。

【講義計画】 上記のような経済問題ごとにグループを作り、グループ単位で研究する。研究したことはゼミで順番に報告して全員で議論する。最終的には個別で修了論文を作成することになる。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 全員に共通のテキストは用いない。ただし、日本語の作文技術と修了論文作成の技術を身につけるために、次の2冊の文献を水谷ゼミの必読書とする：(1)本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、1982年）、(2)木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま文庫、1994年）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51104 51904	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通年	村 松 久 良 光
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ダイナミックに変動している現代の日本経済および環境問題などの今日の問題を対象として、経済学に対する問題関心を高めることをねらいとする。

【講義計画】 以下のテキストから関心のある章の一つ選んで、そのテーマごとに3、4人の班を編成し（同じテーマの班が複数でもよい）、グループ討論、資料収集、発表、質疑応答を行い、テーマを掘り下げて最終的に修了論文を作成する。
夏期には、山で2泊3日の合宿を行い、そこでチーム発表を行う。

【評価方法】 ゼミへの参加熱心度と書評、修了論文

【テキスト】 日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社 最新版）その他に、日本経済新聞など

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51105 51905	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通年	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学の基礎

【講義内容】 今年の演習Ⅰはテキスト、大名泰彦編『エレメンタル近代経済学』（英創社、1994）を参加者とともに輪読していく。

- 内容は、
- ①なぜわれわれは経済学を学ぶか
 - ②21世紀の日本を経済学で考える
 - ③モノの値段はどう決まるか
 - ④1人当たり GNP 世界第3位とはどういうことか
 - ⑤お金の流れのしくみ
 - ⑥政府が行う経済活動
 - ⑦好況・不況はなぜ起きるのか
 - ⑧貿易黒字1323億ドルはどこにあるのか
 - ⑨経済思想の歴史
- である。

【講義計画】 上記の内容を演習参加者と共に輪読し、討論を行う予定。書評も数回提出させる予定にしている。夏期合宿では、『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館出版）を輪読する。

【評価方法】 レポート・出席状況等を総合的に評価する。修了論文が重要。

【テキスト】 ①大名泰彦編『エレメンタル近代経済学』（英創社）、② M. ブローグ著・中矢俊博訳『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51106 51906	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通年	野 村 信 廣
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学で考える日本経済

【講義内容】 現在、日本が抱えている重要な諸問題について、経済学のツールを利用して考えていく。その過程で、新しい事実の発見に努める。

【講義計画】 テキストを各自が分担、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に研究成果を修了論文として提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 林敏彦著「ハート&マインド経済学入門」（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51107 51907	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通年	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 テーマ：社会科学の古典と現代評論を読む。

【テキスト】 1) 前期：エドモンド・バーク『フランス革命の省察』みすず書房
2) 後期：高坂正堯『現代史の中で考える』新潮社、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51108 51908	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通年	阪 本 俊 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 消費としての流行と消費社会

【講義内容】 経済活動と密接に関わる社会現象である流行に関する社会学的な視点を学びながら、身近にある流行についても考えていくことで、私たちが生活している消費社会そのものの理解へと向かうことを目的とする。この中で理解しようとするのは、流行はなぜ生じるのか、過去の社会や文化の異なる社会と比べて、私たちの消費社会における流行はいかなる特徴を持っているのか、そのような特徴はどうして生まれてきたのか、流行がいかなる人間の性格によるものなのか、流行と社会秩序とはどのようなかたちでかかわっているのか、といったことなどである。

【講義計画】 3－4人の班にグループ分けする。
テキストを班毎に発表し、流行についての理解を深めると同時に社会科学のテキストの読み方の習得をめざす。その後、問題についての理解がある程度、深まったところで、身の回りの具体的な流行現象について考察したり討論したりする。
年間、最低二回はレポート提出する。

【評価方法】 出席、レポート、発表や討論への参加の積極度

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51109 51909	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通年	上 田 薫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 私の演習 I は、平易な概説書を用いて経済の現況を知る事を目的としています。本年度は、世界全体に目を向け、人口問題、食料・資料問題、環境問題などの現状とその対策を解説した入門書を読んでいこうと考えています。

【講義計画】 グループ形式による輪読の形で、適宜質問や解説を加えていく予定です。

【評価方法】 出席、報告の仕方、書評、修了レポートで評価します。

【テキスト】 天野明弘著「総合政策・入門」有斐閣

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51110 51910	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通年	Muncada, F.
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Who are the foreign workers in Nagoya? Why and how did they come to Japan? How do the Japanese people look at these foreign workers? This class aims to acquaint the student with foreign workers in especially in Nagoya area.

【講義計画】 First we will touch some migration experiences of Japan. Next we will discuss some labor sending and labor receiving countries and their different strategies.

【評価方法】 Evaluation is based on class participation, results of short tests and reports.
*授業は日本語で行いますが、教材は英語で書いてあります。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51111 51911	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通年	吉 根 勝 美
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「説明」することで学習する

【講義内容】 「他人に説明することで、自分自身の理解が深まる」とは、よく言われることである。また、情報が洪水のようにあふれている昨今、伝達方法を十分に工夫しないと、自分が知らせたい情報を相手に伝えることさえできない。そこで本演習では、担当者自身も含めてゼミ生一人ひとりが、「自分が学んだことについて、表現方法に工夫を凝らして相手に説明し、理解してもらう」ための能力の向上を目指す。

【講義計画】 講義時間内では、視覚表現を活用したり、話し方に気をつけながら、口頭発表を実践する。講義時間以外では、ゼミ生各自が興味あることを学習し、「相手に知らせたいことをうまく伝える」ことを念頭に置いて、文章表現や図解表現に注意を払いつつ、印刷物（レジュメ）や口頭発表用の視覚表現を作成する。この作業では、コンピュータの機能を十分に活用する。なお、学習の範囲は、経済学に関すること、データ解析に関すること、あるいは時事的な事柄とする。

【評価方法】 経済演習Ⅰの共通課題である「修了論文」の提出をもって定期試験に代え、それに平常点を加えて総合的に評価する。平常点には、もうひとつの共通課題「書評」、出席状況、各種提出物等が含まれる。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。
なお、本講義の詳細及び最新情報は、<http://www.nanzan-u.ac.jp/~kyoshine> にて随時提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51131 ） 51134	経済学のための数学	必	1	各2	前期 後期	宮 元 忠 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 微分法入門

【講義内容】 1変数の関数の微分法を中心とする。将来、数学を応用する立場に立つことを考慮して、基礎的な数学概念および定理がわかりやすく、使いやすいように講義する。

【講義計画】 数学概念、定理の意味をつかみやすいように、できるだけ図形的な意味を説明の中に取り入れる。また、小さな区切り毎に、例題、問題の解法を入れ、理解の助けとなるようにしつつ講義をすすめる。数学が嫌いな諸君には「数学A」の併行履修を勧める。

【評価方法】 筆記試験により評価する。出席も考慮に入れる。

【テキスト】 西本敏彦著『微分積分学講義』培風館

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51141 ） 51148	データ処理入門	必	1	各2	前期 後期	近 藤 仁 吉 根 勝 美
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済データの処理とレポートの作成

【講義内容】 論文やレポート作成に役立つ文章の推敲が簡単に行える日本語ワープロの基礎を学習し、また経済の

動きに関する理解を深めるため、現実の経済データを利用して平均や分散あるいは頻度・分布といった統計的データ分析の初歩的手法や成長率や指数変換といったデータの加工手法などを表計算ソフトを用いて学習する。さらにプレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法などを、パソコン統合ソフト「MS-OFFICE」を用いて学習する。

- 【講義計画】 ①情報化社会と情報倫理（情報化社会とデータ、情報の管理、情報倫理）
 ②パソコン入門（コンピュータ、オペレーティング・システム、ファイル管理等）
 ③ワープロ入門（日本語入力・変換、第二水準文字、書式、レポートの書き方等）
 ④経済データ入門（経済データの種類と特性）
 ⑤表計算入門Ⅰ（統計学入門：平均、分散、標準偏差、度数分布、正規分布等）
 ⑥表計算入門Ⅱ（データ加工入門：変化率・成長率、指数・対数変換等）
 ⑦グラフ入門（プレゼンテーション手法としての各種グラフ）
 ⑧統合（表・グラフの文書への取り込み）
 により、パソコンを用いたデータ処理方法を順次学習する。
 また、講義テーマに応じて、3回程度のレポートを課すことによって、各自の理解を促進させる。

【評価方法】 出席とレポート提出により、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51151 51161	経済入門Ⅰ・Ⅱ〔経〕	必	1	各2	前期 後期	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代社会を見る目

【講義内容】 現代社会で起こっている現象を、経済学の視点から分析していく。例えば、①景気循環は何故おこるのか、②われわれの身の回りにある商品はどのように変化しているか、③円はこれからどうなるのか、④世界の人口は増加していくのか、もしそうならその結果何が起るのか、⑤われわれは皆かつてに行動しているのに何故混乱が生じないのか、⑥人間の行動は合理的か、などちょっと考えただけでも、様々な問題が浮かび上がる。それらの問題を入門レベルで考察していきたい。

【講義計画】 例えば、
 ①経済学の取り組むべき諸問題
 ②資本主義社会のルーツ
 ③ケインズ以前の100大経済学者
 ④経済循環の構造
 ⑤インフレーション
 ⑥消費者行動（消費者は王様か）
 ⑦日本人の貯蓄好き
 ⑧人間は働く動物
 という様に、毎回テーマを決めて講ずる予定。前期は初歩的なことを中心に、後期は少しつつこんで講ずる。

【評価方法】 Ⅰ・Ⅱとも、各2回のレポートと、定期試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】 ①森 茂也著『新講経済学（改訂版）』（同文館出版）
 ②M. ブローグ著・中矢俊博訳『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51152 51162	経済入門Ⅰ・Ⅱ〔経〕	必	1	各2	前期 後期	加 藤 尚 史
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経済学の基礎的な概念について解説する。

【講義計画】 ミクロ経済学とマクロ経済学に分けて、それぞれを前期と後期で採り上げることにしたい。

【評価方法】 定期試験の成績に出席状況を加味する。

【テキスト】 福岡正夫『ゼミナール経済学入門』（改訂2版）日本経済新聞社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51153 51163	経済入門Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代社会を見る目

【講義内容】 現代社会で起こっている現象を、経済学の視点から分析していく。例えば、①景気循環は何故おこるのか、②われわれの身の回りにある商品はどのように変化しているのか、③円はこれからどうなるのか、④世界の人口は増加していくのか、もしそうならその結果何が起こるのか、⑤われわれは皆かつてに行動しているのに何故混乱が生じないのか、⑥人間の行動は合理的か、などちょっと考えただけでも、様々な問題が浮かび上がる。それらの問題を入門レベルで考察していきたい。

【講義計画】 例えば、
 ①経済学の取り組むべき諸問題
 ②資本主義社会のルーツ
 ③ケインズ以前の100大経済学者
 ④経済循環の構造
 ⑤インフレーション
 ⑥消費者行動（消費者は王様か）
 ⑦日本人の貯蓄好き
 ⑧人間は働く動物
 という様に、毎回テーマを決めて講ずる予定。前期は初歩的なことを中心に、後期は少しつっこんで講ずる。

【評価方法】 Ⅰ・Ⅱとも、各2回のレポートと、定期試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】 ①森 茂也著『新講経済学（改訂版）』（同文館出版）
 ②M. ブローク著・中矢俊博訳『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51154 51164	経済入門Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	野 村 信 廣
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本経済とマクロ経済学

【講義内容】 現在、日本経済が抱えている諸問題に関して、マクロ経済学の立場から具体的に考えていく。理論的、実証的、歴史的に取り組んでいく。

【講義計画】 テキストをまず理解するところからスタートし、必要に応じて関連の資料を用意して、理解を深める。時に、学生達にカレントな経済問題に関してコメントを提出させたり、意識調査を実施して、分析させたり、経済学を身近なものにしてみよう。

【評価方法】 各期末の筆記テストにコメント・意識調査への参加度、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 福田慎一・照山博司著「マクロ経済学・入門」（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51171 51921	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	川 崎 勝
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代日本経済史の基礎研究

【講義内容】 経済史に限らず歴史の研究には、史料の収集と解説、その分析が不可欠である。古い時代に作成された史料は、墨筆の草書体で書かれたものや、活版印刷されたものでも、用語・文章など、難解なものが多い。そこで、最も基本となる史料（活字化されている）を読みながら、用語や文体に少しずつ慣れて、史料の内容を把握するための基礎訓練を行う。

【講義計画】 テキストの「II 時期別資料」の史料をテーマごとに読みながら、それぞれの時期の経済史を中心に、政治史・社会史・文化史の領域にいたる広い視野のもとに研究していく。
 1. テキストを各自にテーマごとに割り当てて、報告・討論をする。
 2. 報告者（テーマによって1～3名）がレジュメ（内容は要旨と重要用語解説）を配布し、音読・内容説明をする。
 3. 全員で質疑応答・討論をする。
 4. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメ（要旨・用語解説）を用意して時間終了後に提出する。演習は学生が自主的に運営するものであるから、初回に一年間のすすめ方について、十分に討論してもらう。合宿などについては、相談して決める。

【評価方法】 1. 演習での報告・発言の内容と、毎時間ごとに提出するレジュメ。
 2. 前期・後期終了時に、指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 安藤良雄『近代日本経済史要覧〔第二版〕』（東京大学出版会、1979年）
 <資料>
 史料には、現在使われていないもの、意味の異なる用語が頻出するので、たえず辞書を引く必要がある。おっくうがらずに、用語を一つずつ確かめる癖をつけること。演習の準備に不可欠の辞書をあけておく。
 [図書館でみるもの]
 『大漢和辞典』 諸橋轍次編 全12巻、大修館書店
 『日本国語大辞典』 全10巻、小学館
 [個人で演習に持参するもの]
 『角川新字源』 小川環樹他編 角川書店
 （これは、別のもの・すでに持っているものでもかまわない。）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51172 51922	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	村 松 久 良 光
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 仕事の経済学入門

【講義内容】 学校教育や就職・採用、能力開発、給与の決め方、昇進、転職、出向、定年といった日常サラリーマン生活で直面する具体的な題材を取り上げ、実際にどのようなになっているのか、なぜそうなのか、諸外国はどうかを比較検討しながら、現代の日本人の働き方を、経済学の視点からみんなで考えていきたい。
 ・共通テキスト：中馬宏之・樋口美雄『労働経済学』（現代経済学入門、岩波書店、1997）第1章 環境変化と労働市場、第2章 経済変動と労働市場、第3章 教育訓練、第4章 就職と採用、第5章 査定と昇進・定年、第6章 労使関係
 その他に、テーマに応じて参考文献や資料、新聞記事などを参考にする。

【講義計画】 ・進め方：以上のテキストの中から関心のあるテーマ含む章を選んで、3、4人の班を構成する。班ごとに、最初はテキストの内容について発表し、別の班が質問に回り、理解を深める。後半は、そのテーマに関して最近の新聞記事や雑誌論文を選んで発表し、最後に個人ごとに修了論文にまとめる。
 ・合宿：夏期に2泊3日の合宿を行い、そこでもグループ発表・討論を行う。

【評価方法】 発表・討論への参加の積極性と修了論文で行う。

【テキスト】 中馬宏之・樋口美雄『労働経済学』（現代経済学入門、岩波書店、1997）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51173 51923	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	野 村 信 廣
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 計量的に考える日本と世界の経済現象

【講義内容】 日本と世界経済はまさに歴史的転換期にある。そこで日本と世界の経済の変化と発展の過去、現在、将来について、統計情報を利用しながら、具体的に考えていく。見落としている点、想像もしなかった新しい点を発見したい。

【講義計画】 テキストを各自が分担、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に研究成果を修了論文として提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 森口親司著「世界経済ウォッチング」（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51174 51924	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	大 谷 津 晴 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 医療保障の経済学

【講義内容】 日本の医療保障制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、テキストの輪読と計議を中心に進める。年度末の演習の終了時にはレポートを提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 池上直己他『日本の医療』中公新書
西村周三『医療と福祉の経済システム』ちくま新書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51175 51925	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 テーマ：社会科学の古典と現代評論を読む。

【テキスト】 1) 前期：和辻哲郎『風土』岩波文庫
2) 後期：高坂正堯『歴史の中から考える』新潮社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51176 51926	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	山 田 正 次
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本の経済が国際経済の動きとどのようなかわりをもっているのか考える。

【講義計画】 教科書として、伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社）を使用し、グループごとの発表と討論を行う。秋の合宿で、各自が国際経済に関連するテーマを選んで報告し、学年末にそのレポートを提出する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、そして学年末のレポート等から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51177 51927	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	荒 井 好 和
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 「日本版ビッグ・バン」について考える

【講義内容】 「日本版ビッグ・バン」の狙い、影響、効果についてさまざまな観点から考える。さしあたり、新聞・雑誌等に掲載された「ビッグ・バン」に関する記事を取りあげ、それらを一つ一つ確実に理解することから始めたい。
記事の内容を理解するためには、当然のことながら、記事にでてくる術語、金融制度などについて知らなければならない。金融に関する知識の幅を広げなければならない。その意味で、この演習では「現実」を素材にして「新しい金融の仕組み」を理解することを意図している。

【評価方法】 (1)2 回無断欠席は F。
(2)成績は、毎時間の報告内容、討議への参加度、学年末に提出するレポートなどで評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51178 51928	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	加 藤 尚 史
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 英語で書かれた文献を通して、経済学とそれに必要な数学の基礎的知識を身につける。

【講義計画】 テキストの内容に関して、担当者が報告し、全員で議論することにした。

【評価方法】 演習への参加の状況などに基づいて評価する。

【テキスト】 Martin Anthony and Norman Biggs, *Mathematics for Economics and Finance*, Cambridge University Press.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51179 51929	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	吉 本 佳 生
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 論理的に考えながら文章を読み書きする能力を養うことが、この演習の目的です。まずは、文書の読み書きを通じて、論理的に考える姿勢を身につけてもらいます。その上で、パソコンの使い方や経済データの調べ方を学んでもらいます。

【講義計画】 前期は、毎回、課題となる文章を読んできてもらい、その読み方について指導します。また、簡単なレポートを書いてもらい、それを添削して返却することで、わかりやすく論理的な文章を書く訓練をしてもらいます。前期の内容を十分に消化できた学生には、後期は、パソコンのワープロ・表計算・プレゼンテーション・ソフトの使い方や、経済データの調べ方を教えて、それを利用してレポートを書いてもらいます。前期の内容が消化できない学生には、後期にも、前期と同様の課題を与えます。

【評価方法】 平常点で評価します。

【テキスト】 市販のテキストは使用せず、随時、プリントを配布します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51180 51930	経済演習 II 演習 II	必	2	各4	通年	Muncada, F.
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 International Marriages

【講義内容】 Every year thousands of Japanese men gets married to non-Japanese women. Who are they getting married to and why? What are some of the problems these international marriages bring with them? These are some of the questions we will discuss in class.

【講義計画】 First we will study the sociological aspects of marriage. Next, we will describe the present situation of international marriages in Japan. We will try to analyze some of the reasons for this phenomenon.

【評価方法】 Evaluation is based on class participation, results of short-tests and reports.
* 授業は日本語で行いますが、教材は英語で書いてあります。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51201 51941	ミクロ経済学 経済原論 I	必	2	各4	前期	水 谷 重 秋
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 個別経済主体の合理的経済行動を基に価格機構の働きを分析する。

【講義計画】

- (1) 需要と供給
- (2) 消費者の合理的行動
- (3) 消費者の選好順序
- (4) 需要関数の性質
- (5) 企業の合理的行動
- (6) 企業の供給曲線
- (7) 生産要素への需要
- (8) 交換経済の競争均衡

- (9) パレート最適性
- (10) 競争均衡のパレート最適性
- (11) 生産経済の競争均衡
- (12) 不完全競争

【評価方法】 中間試験、期末試験、小テストの結果を総合的に評価する。5月中旬の授業時間中に中間試験を実施する。

【テキスト】 奥野正寛『ミクロ経済学入門』日本経済新聞社、1990年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51202 51942	ミクロ経済学 経済原論Ⅰ	必	2	各4	前期	山 田 正 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 家計や企業の経済行動、そして市場メカニズムの仕組について講義する。

- 【講義計画】
1. ミクロ経済学の対象
 2. 需要と供給の分析
 3. 家計の行動
 4. 企業の行動
 5. 完全競争市場
 6. 不完全競争市場

【評価方法】 二回の試験結果だけで評価する。5月下旬の授業時間中に中間試験を実施する。

【テキスト】 嶋村紘輝『ミクロ経済学』成文堂

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51211 51951	マクロ経済学 経済原論Ⅱ	必	2	各4	後期	荒 井 好 和
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 マクロ経済学の基本概念と基礎理論を講義する。

- 【講義計画】 今年度はマンキュー (N. Gregory Mankiw) 著「マクロ経済学」をテキストとして使用する。本書は、「長期分析から短期分析へ」という新しいアプローチを採用した最新のテキストである。翻訳も読みやすい。入門編と応用編の2冊からなるが、授業では入門編のみを使用する予定。ちなみに本書の目次を以下に再録しておく。なお、受講者は授業に先立って予習してることが望ましい。
1. 科学としてのマクロ経済学
 2. マクロ経済学のデータ
 3. 国民所得：生産、分配、配分
 4. 貨幣とインフレーション
 5. 開放経済
 6. 景気変動へのイントロダクション
 7. 総需要Ⅰ
 8. 総需要Ⅱ
 9. 総供給
 10. 短期の開放経済

【評価方法】 2回の定期試験で評価する。11月中旬の授業時間中に中間試験を実施する。

【テキスト】 N. グレゴリー・マンキュー著「マクロ経済学Ⅰ 入門編」東洋経済新報社 1996年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51212 51952	マクロ経済学 経済原論 II	必	2	各4	後期	吉 本 佳 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 マクロ経済学の基本概念と基礎理論を講義する。

【講義計画】 以下の項目を講義する。(講義の進め方などについては、初回講義で説明する。)

1. 科学としてのマクロ経済学
2. マクロ経済学のデータ
3. 国民所得：生産、分配、配分
4. 貨幣とインフレーション
5. 開放経済
6. 景気変動へのイントロダクション
7. 総需要 I
8. 総需要 II
9. 総供給
10. 短期の開放経済

【評価方法】 2回の定期試験で評価する。11月中旬の授業時間中に中間試験を実施する。

【テキスト】 辻・田岡・吉本著『演習マクロ経済学』（日本評論社、1997年、3296円）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51221 51961	経済演習 III 演習 III	必	3	各4	通年	川 崎 勝
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本経済史の研究

【講義内容】 経済学は現在の時点で生起している経済の動向を分析する学問である。経済史は、過去の時点で生起した事象を、その時点の資料にもとづいて分析するもので、経済学と歴史学の中間、あるいはその双方にまたがった学問といえる。過去の事柄＝歴史を研究することは、歴史学の手法に依拠しなければならない。歴史の手法とは、資料（文献、統計、文書、記録など）にもとづいて、その時代に起こった事柄を再構築することにある。そのためには、まず資料を正確に読みとり、それが書かれた背景を探り、何のために書かれたものか、またそれは何を意味しているのか、などについて考えていくことになる。

経済演習 III では、1850年代のはじめ、ペリー来航の前夜から、明治維新、自由民権運動を経て、日本に資本主義が確立していく時代を中心にして、その時期に書かれた資料を読み解いていくことを通して、経済史（歴史）の勉強の仕方を身につけていくことを課題とする。

それと同時に、1999年度に継続される経済演習 IV での卒業論文のテーマをできるだけ早く（前期中に）決める。

- 【講義計画】
1. 初回に、テキストの1～2項を、報告者（3名1グループ）に割り当てる。
 2. 討論資料となるレジュメを配布する。資料の要約、内容の紹介、背景の解説、意義の説明を行ない、問題点を指摘して、討論する。
 3. 討論は、まずコメンテーター（次回の報告者3名のグループ）が、全体にわたる質問をし、報告者の問題点に考えを述べる。
 4. 次に、全員で、質疑応答・討論をする（時間内に必ず1回以上の発言を義務づける）。
 5. 司会進行は、運営委員の指示によって進める。
 6. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメを用意して、討論での問題点をメモし、時間の最後に運営委員に提出する。レジュメの提出で出席とみなす。
 7. 演習は、学生生活の中心であるから、すべてに最優先され、やむを得ない場合を除き欠席は認めない（無断で2回連続欠席は、その時点でF）。
 8. 演習は、学生が自主的に運営するものであるから、初回に各委員を選出し、1年間の進め方（ゼミ運営、サブゼミ、合宿、親睦会、コンパ、その他）について、十分に討論してもらう。

【評価方法】 1. 演習での報告・発言・レジュメの内容。

2. 前期・後期終了時に指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 歴史学研究編『日本史史料〔4〕近代』岩波書店、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51222 51962	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	近 藤 仁
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 計量経済分析の基礎

【講義内容】 現実のデータを基礎に経済的な仮説を検証する手法を研究すること、およびコンピュータを用いて実証的に分析することが計量経済学の学問領域である。前期に計量モデルの特性や経済データの基礎、および計量経済分析の基礎的理論を習得し、後期には計量経済分析用コンピュータ・ソフトウェア「TSP」を利用した小グループによる実証分析を通して、分析結果の評価方法や実際の分析において生じる問題の解決方法を学習する。

【講義計画】 1) 経済データ種類と特性およびデータの加工
2) 計量経済モデル
3) 最小二乗推定法
最小二乗推定量とその統計的特性
推定結果の評価（説明力、有意性検定、自己相関の有無等）
4) 推定手法の拡張
多重共線性・ダミー変数・構造変化
一般化最小二乗法の利用
予測とシミュレーション
等について学習する。
また、グループによる実証研究は授業と並列して行う事により、その研究成果は『南山学生論集』へ投稿する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、実証研究による貢献度と試験で総合的に評価する。

【テキスト】 山本 拓著『計量経済学（新数学ライブラリ12）』（新世社、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51223 51963	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	水 谷 重 秋
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 環境経済学入門

【講義内容】 長良川河口堰に象徴されるダムと環境破壊の問題、藤前干潟問題、自動車公害、ゴミ問題、原発と環境破壊の問題など、いま日本の各地で起こっている具体的な環境問題を取り上げて、その原因と対策を考えてゆく。

【講義計画】 ①数個のグループを作り、各グループごとに課題を決めて研究する。研究の結果はゼミで報告して、全員で討論する。②学年末にグループごとに修了論文を提出する。③春と夏に2泊3日の合宿を行う（春は新3、4年合同合宿）。④神戸大学と交歓討論を行う。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 ゼミ共通のテキストは使用しない。ただし、下記の本は水谷ゼミ生必読文献とする。：(1)本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、1982年）、(2)木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま文庫、1994年）。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51224 51964 51992	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ 演習Ⅳおよび卒業論文	必	3・4	各4	通年	村松久良光
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【副 題】 仕事の経済学－情報化に伴う働き方の変化

【講義内容】 最近急速に進んできた情報化技術、特に、ネットワーク技術の進展によって、事務・技術職の働き方と意識がどのように変わっていくのか、このテーマを題材にして、現代における仕事のあり方を考えていきたい。演習では、クロス集計などをコンピュータで行う手法を学びながら、このようなテーマで行われたアンケートデータを材料にして分析し、修了論文にまとめていく。

【講義計画】 ・前期は、パソコンの使い方を復習し、SPSSX のプログラムを習い、主にクロス集計表の作成を学ぶ。
後期は、アンケート質問紙にしたがってテーマを設定し、修了論文を作成する。
・3年の夏の合宿には小池和男『日本企業の人材形成』（中公新書、1997）を集中的に学ぶ予定。
・4年生の卒業論文のテーマには、海外のある国の労働事情を調べることを勧めている。4年生になる前の春の合宿でそのテーマの決定を行う。

【評価方法】 ゼミへの参加度と発表、レポートの提出、修了論文で行う。

【テキスト】 『新版 SPSSX 1 基礎編』（図書館の本を利用）
中部産業・労働政策研究会『情報化技術革新による事務・技術職の働き方の変質と労使の対応』（中部産業・労働政策研究会、1997、非市販）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51225 51965	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	中矢俊博
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【副 題】 ケインズ経済学入門

【講義内容】 ケインズ経済学を各方面から分析する。

【講義計画】 前期には、ケインズ経済学の基礎を修得する。夏期合宿では、現実の経済問題を議論する予定。後期はケインズの『一般理論』を講読する。

【評価方法】 レポート、ゼミへの貢献度などを総合的に評価する。

【テキスト】 ① M. ブローグ著・中矢俊博訳『ケインズ経済学入門』（東洋経済新報社）
② 朝香 豊『経済のことがわかる辞典』（西東社）
③ J. M. ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』（東洋経済・新潮社、普及版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51226 51966	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	野村信廣
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【副 題】 日本経済が抱える諸問題に注目し、それを理論的、実証的、歴史的に分析していく

【講義内容】 とりあえず、テキストを参考に日本経済の重要問題を計量的に把握する。その後、各自の関心あるテーマ（身近な問題も大歓迎）について、どう考え（理論構成）、どう作業（統計知識と分析道具）、どうま

とめる（構想力と表現力）かを勉強していく。

【講義計画】 各自が課題を決めて研究、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に修了論文（卒業論文の中間報告に相当）を提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 経済企画庁総合計画局「データで読む日本の経済構造」（東洋経済）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51227 51967	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	大谷津晴夫
他の科目 との関連	社会保障論A・B、公共経済学Ⅰ・Ⅱ、仕事の経済学Ⅰ・Ⅱ、労働法			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 高齢化社会の社会経済問題

【講義内容】 日本の公的年金制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、討論を中心に進める。年度末には終了論文を提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 宮島 洋『高齢化時代の社会経済学』岩波書店、1992年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51228 51968	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	櫻井健吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【テキスト】 1) 前期 カルロ・チボラ『大砲と帆船：ヨーロッパの世界制覇と技術革新』みすず書店
2) 後期 J. R. ヒックス『経済史の理論』講談社（学術文庫）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51229 51969	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	山田正次
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際経済学の分野で、貿易収支および経常収支不均衡の問題を検討する。

【講義計画】 テキストに従い、グループごとの発表と討論を行う。ゼミは週二回で、ゼミ生の関心に従って国際経済のカレントトピックスをも議論する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答等から総合評価する。

【テキスト】 クルグマン・オブズフェルド（著）石井その他（訳）『国際経済Ⅱ・国際マクロ経済学』（新世社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51230 51970	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	荒 井 好 和
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 金融・国際金融論

【講義内容】 金融・国際金融の諸問題に関心を持つ人は多い。しかし勉強を進めるにしたがって、金融・国際金融の領域ほど理解しがたいものはないという感想を持つに至る人が多い。これは、私たちが日々の生活のなかで接する金融情報と、いわゆる金融「理論」とのギャップが大きすぎることに原因があるのではないだろうか。そこで、この演習では、まず現実の金融・国際金融の領域で起こっているさまざまな変化を概観することから出発し、それらの変化が《さまざまなレベルで相互に関連している》事実を確認する。次いで、種々の金融現象を系統的に理解するための「道具としての理論」の習得に進むという手順を踏んでみたい。前期で、上記の「現実と基礎理論」を終え、夏休みと後期は、他大学（大阪外国語大学と名古屋大学）との交換ゼミの準備に入る。

【講義計画】 初めに、根津永二・辻正次・千田純一・奥野博幸・桜川昌哉著『やさしい日本の金融の話』（有斐閣、1995）を読む。次いで、河合正弘・須田美矢子・翁邦雄・村瀬英彰著『ゼミナール国際金融・基礎と現実』（東洋経済新報社、1993）を取り上げ、国際金融の現実を見る。ただし、理論的な細部にはこだわらない。前2書を読了した後、理論の入門書として、岩田規久男・堀内昭義著『金融』（東洋経済新報社、1983）を読む。また、必要に応じてジャーナルの論文を適宜使用する。
前期：2人1組で一つの章を担当し、レジュメを作成する。1回のゼミで2～3章進む予定。
後期：他大学と協議の上、討論のテーマを決め、2つのグループがそれぞれのテーマのもとに討論に向けて準備を進める。

【評価方法】 1) 2回無断で欠席した場合はF。
2) ゼミでの報告、発言、討論会のための論文作成などで評価。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51231 51971	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	加 藤 尚 史
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 応用経済学

【講義内容】 都市や地域、環境にかかわる問題を取り上げて、経済分析を加える。方法論を学び、特に計量的な手法の習得を目指す。

【講義計画】 テキストの内容に関して、担当者が報告し、全員で議論することにした。

【評価方法】 演習への参加の状況などに基づいて評価する。

【テキスト】 以下の文献を利用する「予定である」。
A. H. Studenmund (1997). Using Econometrics : A Practical Guide (3rd ed.), Addison-Wesley Educational Publishers.
田中克明 (1994)『経済・経営分析のためのSAS入門』有斐閣
縄田和満 (1997)『TSPによる計量経済分析入門』朝倉書店
中村良平・田淵隆俊 (1996)『都市と地域の経済学』有斐閣
植田和弘・岡 敏弘・新澤秀則〔編〕(1997)『環境政策の経済学』日本評論社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51232 51972	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	阪 本 俊 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 消費理論の基礎を学ぶ

【講義内容】 消費社会における諸現象を考察するための基礎的な理論を学習する。ボードリヤール等の社会学理論をゼミナール形式で読むことで、記号論的な視角から経済現象をとらえるやり方を学ぶ。この学習を通じて、抽象的で理論的な著作の読解を練習するとともに、流行や広告、大量消費、操作された欲望など消費社会における諸現象を探究し、明らかにするための基本的な視座の習得を目指す。

【講義計画】 二名から三名の小グループにわけ、グループ毎にテキストに関する発表を毎回行なってもらう。レポートは年に四回提出。

【評価方法】 出席、報告、研究レポートから評価する。

【テキスト】 J. ボードリヤール、『消費社会の神話と構造』、紀伊国屋書店

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51233 51973	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	上 田 薫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 公共問題の経済分析

【講義内容】 現代の社会的経済的問題を経済学の観点からどのように理解することが出来るかを知り、各自の関心のある社会問題を経済学の知識を応用しながら分析していく出発点としたい。

【講義計画】 昨年と同様に、下記のテキストの輪読を行い、次の段階では、テキストで扱った問題などの中から、各自が興味を持った経済問題について研究報告を行っていくことにしたい。

【テキスト】 ダグラス・ノース、ベンジャミン、ミラー著
「経済学で現代社会を読む」日経新聞社 1995年
直、原著は新しい版が出ており、翻訳では扱われていない社会問題に関する議論もなされている。これも併用していきたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51234 51974	経済演習Ⅲ 演習Ⅲ	必	3	各4	通年	吉 本 佳 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 為替レート・金利・景気などの動向を、論理的に分析するための能力を磨くことが、この演習の目的です。大学を卒業した後、実際に役立つような考え方、基礎知識を身につけてもらいます。そのための道具として、必要に応じてパソコンを活用します。

【講義計画】 ゼミの形式・題材については、いくつかのメニューを提示し、学生と相談の上で決めます。また、途中からは、それぞれの学生の能力に応じて、指導する内容・方法を決めます。つまり、能力主義のゼミにしたいと考えています。

【評価方法】 平常点で評価します。

【テキスト】 未定。必要に応じて指定します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51251 51981	経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	各4	後期	花 井 敏
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 日本経済のマクロ分析

【講義内容】 本ゼミナールでは「日本経済のマクロ分析」を勉強しますが、4年次には各自の卒論に取り組みます。

【講義計画】 夏休み 各自でテーマ決定
10、11、12月 卒論の経過報告
1月 卒論執筆、提出

【評価方法】 ゼミ出席、卒論の出来ばえ、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51252 51982	経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	各4	通年	近 藤 仁
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 計量経済分析の実際と応用

【講義内容】 3年次で学習した計量モデルの分析手法を、卒業論文で実証研究として実際に取り入れる場合の、データの収集や加工に関する問題点やモデルビルディングにおける問題点等について解決方法を考えるとともに、より高度な推定手法についても学習し、充実した卒業論文となるように指導する。

【講義計画】 個人の研究発表を基礎に、モデルやデータ、推定結果における問題点や解決方法について全員で討議する。その結果を受けて、実証研究における知識の充実を図るとともに、現実に対応できるように具体的なモデル推定改良手法やより高度な推定方法を学習し、卒業論文への応用について指導する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、研究発表と議論への参加度・貢献度で総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51253 51983	経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	各4	通年	水 谷 重 秋
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 経済政策論

【講義内容】 卒業論文作成の個別指導：毎週のゼミの時間と個別面談を通じて各自の卒業論文を完成させる。

【講義計画】 毎週2人ずつ卒業論文の経過を報告し、ゼミ生からの質問や意見に答えつつ論文を完成させていく。

【評価方法】 ゼミナールでの活動状況や卒業論文の出来具合などを見て総合的に判断する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51254 51984	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 各自の選定したテーマに従い、卒業論文を完成させることが、本演習の課題である。

【講義計画】 毎週3人ずつ卒論の経過報告を行い、他のゼミ生からの質問等に答える。それをもとに卒論を完成していく。

【評価方法】 報告内容と卒論の出来具合との総合評価

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51255 51985	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	大 谷 津 晴 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 前期は特定のテキストを輪読し、後期は卒論の発表にあてる。

【評価方法】 出席、発表、卒論を総合的に評価して、成績をつける。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51256 51986	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【講義内容】 卒論発表

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51257 51987	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	山 田 正 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際経済の分野で各自の選んだテーマに従って、順次、報告と討論を行い、卒業論文の作成を指導する。

【評価方法】 普段の発表と卒業論文等から評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51258 51988	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	荒 井 好 和
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 金融・国際金融論

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行なう。

【講義計画】 ゼミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51259 51989	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	阪 本 俊 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 消費社会の実態の解明

【講義内容】 経済演習 III において習得した理論を用いて、現代の日本における消費に関連する現象を学生各自の問題関心や視点から分析あるいは調査を行う。
その結果を卒業論文としてまとめる。

【講義計画】 前期の前半は、卒業論文のテーマ、計画の作成、およびテーマへのアプローチの仕方や調査方法などを指導する。
前期の後半から卒論の作成に取りかかり、各自の研究の計画発表を行う。
後期は、その経過報告およびその吟味と指導をおこなう。

【評価方法】 卒業論文

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51260 51261 51990 51991	経済演習IV 演習IVおよび卒業論文	必	4	各4	通年	上 田 薫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 前年度に各自でまとめて研究内容をもとに、研究及び論文作成の指導を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51401 51411	経済英語 I ・ II	選・必	2～4	各2	前期 後期	山 田 正 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際経済学の基本的考え方を平易に解説した下記のテキストを輪読し、講述を加える。

- 【講義計画】 テキストの各章は次の通り。
 Chap. 1 The Principle of Trading
 Chap. 2 Supply, Demand, and Trade
 Chap. 3 The Terms of Trade
 Chap. 4 Trade Restrictions
 Chap. 5 Economic Integration
 Chap. 6 Trade, Growth, and Development
 Chap. 7 The Multinational Corporation
 Chap. 8 The Balance of International Payments

【評価方法】 出席と定期試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】 K. Friedrich, International Economics : Concepts and Issues. (初日に、受講者へこのコピーを配布する。)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51402 51412	経済英語 I ・ II	選・必	2～4	各2	前期 後期	Muncada, F.
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 The class offers opportunities to practice listening, speaking, reading and writing. The focus is on listening and the ability to effectively communicate in common business situations.
 Among other topics, Keizai English I deals with first meetings, introducing yourself and your company, making appointments, and expressing opinions and preferences.
 Keizai English II deals with making contacts, both personal and by telephone, describing products, monitoring a project, setting agenda and holding discussions.

【講義計画】 First there will be a lecture as to the main objective for the day. This will be followed by listening to the tape and orally practicing English idioms to be used. Next level of practice is through role-playing. There will be opportunities to present and discuss some selected articles in English.

【評価方法】 Assessment is based on class participation and reports.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51403 51413	経済英語 I ・ II	選・必	2～4	各2	前期 後期	Easley, K.
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ECONOMIC DEVELOPMENTS IN THE WORLD

【講義内容】 A survey of developments in major world economies (especially Japan).
 Different kinds of capitalism will be identified and examined historically, and their relationship to the cultural values of particular countries will be explored a little.

【テキスト】 No set text. Video and handouts will be used.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51404 51414	経済英語 I ・ II	選・必	2～4	各2	前期 後期	Mansell, W.
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.
The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.
This is part two of a two part course. Part one business English I&II.
- 【講義計画】 The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.
Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.
- 【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participations and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absence will be withdrawn from the class.
- 【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
51405 51415	経済英語 I・II	選・必	2～4	各2	前期 後期	Tanner, P.
他の科目 との関連				他学科 履修	可	重複 履修 不可

- 【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.
The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.
This is part two of a two part course. Part one business English I&II.
- 【講義計画】 The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.
Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.
- 【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participations and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absence will be withdrawn from the class.
- 【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
51422 51432	外書講読 I・II (環境経済学)	選・必	2～4	各2	前期 後期	水谷重秋
他の科目 との関連				他学科 履修	不可	重複 履修 不可

- 【副題】 環境経済政策論入門

- 【講義内容】 環境問題に経済学的側面から接近する場合の理論と政策を検討する。特に、維持可能な発展の観点から環境問題を考察する。テキストの内容は以下のようになっている。
- Part 1. Economic Preliminaries (環境問題と環境経済学、経済学者の世界の見方、市場の失敗と環境)
- Part 2. The Choice of Instruments for Environmental Policy (環境汚染の経済理論、ピグー的環境汚染モデルに対する批判、環境政策の選択、農薬汚染、ゴミ問題、自動車による大気汚染)
- Part 3. Cost-benefit Analysis (費用便益分析の原理、環境の評価法、費用便益分析の実際)
- Part 4. Sustainable Development (枯渇資源、再生資源、維持可能性と維持可能な発展、生物多様性維持の方策、地球規模の環境政策)
- 【講義計画】 各部分の分担をあらかじめ決めておき、発表と、それに基づく討論という形をとる。
- 【評価方法】 毎回の発表と期末テスト
- 【テキスト】 Bowers, J., *Sustainability and Environmental Economics* : An Alternative Text, Longman, 1997.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51424 51434	外書講読Ⅰ・Ⅱ(経済統計)	選・必	2～4	各2	前期 後期	野村信廣
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 ここ数年来、高齢者の介護問題が人々の関心をあつめはじめているが、高齢者の介護が高齢化社会における社会政策の最重要課題の一つになることはまちがいない。そこで本講では、OECD(Organisation for Economic Co-operation and Development)の社会政策研究シリーズの中から最新の世界の介護政策の展開をとりあげた研究を選んで、この問題における各国の取り組みの現状と動向を探ることとする。
- 【講義計画】 OECD, *Caring for Frail Elderly People* 1996.
- 【評価方法】 出席を重視し、その上で定期試験の成績を基に評価をつける。
- 【テキスト】 テキストは当方で用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51425 51435	外書講読Ⅰ・Ⅱ(社会政策)	選・必	2～4	各2	前期 後期	大谷津晴夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

- 【副 題】 外書で学ぶミクロ経済学
- 【講義内容】 下記のテキスト(英語)を用いて、ミクロ経済学の基礎を学ぶ。本書は、現在もっとも定評のあるテキストの一つであり、ていねいな説明と豊富な事例により理解しやすいと思われる。授業は、輪読または報告形式であり、必要に応じ内容に関して講義する。
- 【講義計画】
- 1) 需要と価格
 - 2) 需要と所得および他の決定因
 - 3) 供給
 - 4) 需要と供給の弾力性
 - 5) 市場価格の決定
 - 6) 市場の効率性と市場の失敗
 - 7) 需要と供給の分析の利用法
- 【評価方法】 出席、平常点および各期末の定期試験の成績により総合的に評価する。詳細については、最初の時間に説明する。
- 【テキスト】 Lipsey, R. G. and C. Harbury, *First Principles of Economics*, Oxford, 1988.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51426 51436	外書講読Ⅰ・Ⅱ（西洋経済史）	選・必	2～4	各2	前期 後期	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義の目的は、英語で書かれた経済関係の文献を読みこなすことが出来るようにすることである。
講義に使用するテキストはこちらで用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51428 51438	外書講読Ⅰ・Ⅱ（マクロ経済学）	選・必	2～4	各2	前期 後期	皆 川 正
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ヨーロッパ近代経済史

【講義内容】 Ⅰ（前期）テキスト：R. Cameron, A Concise Economic History of the World, 3rd ed. 1997.
Chapter 7: The Dawn of Modern Industry
Ⅱ（後期）テキスト：同上書
Chapter 8: Economic Development in the Nineteenth Century: Basic Determinants

【講義計画】 上記の英語文献をていねいに訳読していく。
履修者全員の予習を前提とする。

【評価方法】 毎回出席をとる。小テストを2回行う。
学期末試験を含め総合評価。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51429 51439	外書講読Ⅰ・Ⅱ（ミクロ経済学）	選・必	2～4	各2	前期 後期	藪 内 繁 己
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済の動きを知るための統計情報の読み方

【講義内容】 テキストや資料（ともに英文で、随時、指示）を輪読する。

【講義計画】 参加者全員が各自担当の部分を読み、紹介、解説する。

【評価方法】 授業での読解・説明の仕方、各期末の筆記テストと出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 新聞や雑誌等のカレントな経済情報を理解するうえに必要な経済指標の内容や読み方に関するテキストを使用。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51441 51451	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	Easley, K.
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 BUSINESS ENGLISH

【講義内容】 The course will cover English communication skills in business situations. The focus will be on speaking and listening practice : information exchange, making contact, meetings, business socialising, describing trends, etc.

【テキスト】 Business Objectives (Oxford University Press. New edition)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51442 51452	ビジネス英語 I ・ II	選・必	2～4	各2	前期 後期	Mansell, W.
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one business English I&II.

【講義計画】 The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Student are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participations and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absence will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51443 51453	ビジネス英語 I ・ II	選・必	2～4	各2	前期 後期	松 井 清 治
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 企業の国際化が益々進んでいる今日、日本人にとって国際的に通用する重要な能力の一つとして、語学力が挙げられる。特に英語は、国際的な情報ネットワークの発達によって、一段と世界の標準語になっている。言語は思考・行動様式・価値感など文化の特性を反映していると言われるが、特にビジネス英語の修得には、英語の知識だけでなく国際取引上の専門用語や背景にあるビジネス慣行などを理解することが必要となる。また、外国との時差に関係なく使えるコミュニケーションの手段として、ファクシミリや電子メールが普及したことにより、書くことの必要性が高まっている。

そこで本講座では、国際貿易実務の基礎知識と専門用語を学習しながら、英文ビジネス・レターの書き方を中心としたビジネス英語を修得する。

【講義計画】 前期：Letters on Business Situations

貿易取引の流れに従って、貿易通信文を中心にその書き方を学習する。

後期：Letters on Social Situations

ビジネスに伴う出張・訪問の手配、招待状、各種の礼状や挨拶状などの書き方。

なお、貿易実務や国際取引の実際については、35年間の国際ビジネス経験をベースに、具体的事例を挙げて講義する。また、実際に使われたビジネス文書やスピーチ原稿なども教材にする。

【評価方法】 授業への参加度および期末試験の成績による。

【テキスト】 “BUSINESS LETTERS FOR ALL” Oxford Univ. Press, 1996.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51444 51454	ビジネス英語 I・II	選・必	2～4	各2	前期 後期	Tanner, P.
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one business English I&II.

【講義計画】 The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participations and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absence will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51601	経済史入門 A	選	2～4	2	前期	川 崎 勝
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本経済史学の成立と展開

【講義内容】 「経済史」とはどういう学問かをまず問うことからはじめ、経済学と歴史学が近代日本でどのように成立・発展してきたかについて、さまざまな影響を与えてきた西欧の経済思想をも視座に入れて考えていく。

【講義計画】 幕末から明治初期にかけての啓蒙思想と文明史、明治中期の官学アカデミズム史学、明治後期の社会政策学、1900年前後の日本経済史の成立、1920～30年にわたる日本資本主義論争などをとりあげ、西欧の自由主義経済学派、ドイツ歴史学派、マルクス経済学、ウェーバー社会科学論などとの関連で講義する。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。講義で、参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51603	経済史入門B	選	2～4	2	後期	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 第1編 近代経済史研究への序説
 第1章 産業革命の人類史的位置：
 C. M. チボラの「人類史における二つの革命」論を中心として
 第2章 概念上の諸問題：
 (1)経済成長、(2)工業化、(3)資本主義、(4)産業革命
 第3章 産業革命の研究史：悲観論と楽観論
 第4章 W. W. ロストウの「離陸」論：
 『経済成長の諸段階』（1960年、増補版1971年）
 第5章 A. ガーシェンクロンの「比較後進性」の仮説：
 『歴史的展望の中での比較後進性』（1962年）
 第2編 人口と工業化
 第1章 前工業化時代の人口（800－1800年）：
 「マルサスの悪循環」の世界
 第2章 工業化時代の人口（1750－1914年）：
 「マルサスの悪循環」の克服と「人口爆発」
 第3章 ドイツの過剰人口、窮乏化問題、工業化（1800－1850年）：
 過渡期の人口と経済
 第4章 ドイツの工業化、国内人口移動、都市化（1850－1914年）：
 「水平的・垂直的流動性」
 第5章 人口転換（1800－1980年）：
 「農業の人口様式」から「工業の人口様式」へ

【評価方法】 定期試験（70点）、出席（30点）

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51605 51607	経済数学Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	皆 川 正
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ミクロ経済学やマクロ経済学を学ぶ上で不可欠と思われる数学的手法について講義する。出来るだけわかりやすく説明するつもりである。

【テキスト】 ヘンダーソン・クォント著、小宮・兼光訳『現代経済学』創文社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51611	統計学入門Ⅰ	選	2～4	各2	前期	程 島 次 郎
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 （経済）データの分析

【講義内容】 統計学は、実際のデータを分析して、データの特徴を整理・要約したり、データが生成された元々の集団について推測する方法を学ぶ学問である。
 本講義では、（経済）データに現われた特徴や関係などを整理・要約し記述する方法（記述統計学）を学ぶ。1年次の「データ処理入門」で学んだ表計算ソフト Excel を使った演習や宿題を行う。学習にあ

たっては、実際に紙と鉛筆、電卓、パソコンなどで計算し確認することが大切である。

- 【講義計画】 以下の順で講義を行う。
 (1)統計学とは何か
 (2)度数分布とローレンツ曲線
 (3)データの特性値
 (4)経済変数間の関係

【評価方法】 宿題、小テスト、期末テスト

【テキスト】 刈屋・勝浦著『統計学』東洋経済新報社（1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51613	統計学入門Ⅱ	選	2～4	各2	後期	程 島 次 郎
他の科目との関連	統計学入門Ⅰを既に履修済であること。			他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 (経済)データの分析と推測

【講義内容】 「統計学入門Ⅰ」に続いて、(経済)データからデータがとられた元々の集団についての推測(推定および仮説の検定)を行う方法(推測統計学)を学ぶ。それにより、データを分析して帰納的な推論を行う方法を学ぶことになる。例えば、データを生みだす(経済)変数間の真の関係を推定したり、データに基づいて(経済)理論の現実での妥当性を検証したりする。

- 【講義計画】 以下の順で講義を行う。
 (1)確率変数と確率分布
 (2)標本分布と確率モデル
 (3)推定と検定
 (4)回帰モデルによる統計的分析

【評価方法】 期末テスト

【テキスト】 刈屋・勝浦著『統計学』東洋経済新報社（1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51615 51617	経済思想入門Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	大 谷 津 晴 夫
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 市場と貨幣の経済思想

- 【講義内容】 講義の主要項目は以下の通り。
 1. 社会の分化と市場の成立
 2. 市場の秩序
 3. 道徳経済と市場経済
 4. 政治と経済
 5. 公正と均衡
 6. 市場の失敗
 7. 市場と組織
 8. 非市場社会
 9. 市場社会と貨幣
 10. コミュニケーションと貨幣
 11. 貨幣の経済機能
 12. インフレーションとデフレーション

【評価方法】 定期試験と随時行う小テストの成績に従って評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51625 51627	経済統計論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	野 村 信 廣
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済統計による日本経済の分析

【講義内容】 経済統計の内容を理解し、実際に日本経済を分析するうえでの経済統計の読み方と利用方法を学び、その分析結果について考える。

【講義計画】 テキストをまず理解するところからスタートし、必要に応じてそのつど新しい経済統計を用意、最近の経済動向について分析する。時に、学生達を対象にアンケート調査やシミュレーション（模擬実験）を行い、経済統計と経済分析を身近なもの（等身大の経済学）にする。

【評価方法】 各期末の筆記テストにアンケート・実験への参加度、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 中村隆英・新家健精・美添泰人・豊田 敬著「経済統計入門」（東大出版会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51641 51643	データ解析Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	吉 根 勝 美
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義では、「データの背後にある現象を正しく認識することが『データ解析』であり、そのためには、データの中に埋もれている情報をうまく拾い上げることのできる『モデル』の役割が重要である」という立場をとる。世の中の様々な現象を隅々まで逐一観察するのは実行不可能であり、現象の理解のためには、ある程度まで単純化した「モデル」が必要だというわけである。本講義では、各種モデルによる分析手法の理解を主な目標とし、それに関連して、コンピュータの活用方法やデータの表現方法に関する話題を取り上げる。

【講義計画】 講義内容については、下記の各項目を取り上げる予定である（順不同）。
 ●統計の基礎概念（例：代表値、散布度、標準化）
 ●データの表現方法（例：グラフ化、多次元データの記述）
 ●データ分析の手法（例：回帰モデル、重回帰モデル、分割表モデル、多項式回帰モデル、自己回帰モデル、分散分布モデル）
 また、主に表計算ソフトウェア EXCEL を使用して、講義で取り上げたことを実践する。

【評価方法】 定期試験に代えるレポートと平常点（数回のレポート等）から総合的に評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。
 なお、本講義の詳細及び最新情報は、<http://www.nanzan-u.ac.jp/~kyoshine> にて随時提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51651 51653	経済政策論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	水 谷 重 秋
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本は GNP が世界第二位であるにもかかわらず、多くの国民は真の「豊かさ」が実感できないでいる。本講義では、その原因を探り、経済的側面からその解決策を提起する。経済政策の理論とともに、その

ときどきに起こっている具体的な問題を紹介しつつ、その対応策を考えていく予定。

【講義計画】 経済政策の理論的基礎（経済政策の目標、政策主体と意思決定機構）、経済の成長と安定（成長と安定の理論と経済政策、財政施策、金融政策）、資源配分と価格機構（資源配分政策の基準、厚生経済学の基本定理、外部性と公共財の問題）、所得分配（所得分配の基準、最低水準の保障）、環境政策とエネルギー政策（環境破壊の現状と環境政策、エネルギー問題の現状とエネルギー政策）。

【評価方法】 期末試験と、随時行う小テストの結果を総合して評価する。

【テキスト】 テキストは用いない。プリントを用意し、講義の中で問題ごとに参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51655 51657	経済変動論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	夏期 集中	田 原 昭 四
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 景気変動の理論的・統計的研究

【講義内容】 景気変動の性格と形態、景気理論の歴史と発展、景気政策の意義と特徴を論述するとともに、日本経済および世界経済における景気変動の実証的分析を取り上げる。

【講義計画】 経済変動論Ⅰでは、景気変動について基礎的知識と実証的研究を論述する。経済変動論Ⅱでは、これを踏まえて近代的景気理論と現在の景気理論、および景気政策を論述する。

【評価方法】 学期末試験の結果を重視する。また、出席状況も評価する。

【テキスト】 田原昭四『景気変動と日本経済』（東洋経済新報社、1983）および関連文献。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51661 51663	日本経済論A・B	選	3・4	各2	前期 後期	辻 正 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本経済の特徴は雇用慣行、企業集団、メインバンク制、さらに産業政策などに要約される。これらは「日本型システム」と呼ばれる。講義では、この日本型システムの特徴を検討し、日本経済の構造文化とどう関わってきたか分析する。

【講義計画】

1. 戦後の日本経済の成長
2. 石油ショックと構造変化
3. 日本的雇用慣行
4. 企業制度とメインバンク制
5. 政府の役割
6. 長期契約型と市場型システム
7. 経済の情報化とネットワーク型経済への転換

【評価方法】 レポートと定期試験

【テキスト】 辻・西脇著『ネットワーク未来』日本評論社、1996年
辻『エコノミックス・イン・アクションー経済・社会の動きを読む』日本評論社、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51671 51673	金融論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	荒 井 好 和
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「金融」とは何だろうか。いま試みに、「金融とは、国内・国際を問わず、おカネの動きにかかわる経済活動である」と考えてみれば、私たちの毎日の生活は、「金融」なくしては成り立たないことは自明だといってよい。私たちが日々接する経済情報の中でとりわけ「金融」に関する情報が多いのも当然であろう。しかしながら、断片的な経済情報をただ漫然と眺めているだけでは、「金融」が、国民所得、雇用、金利、国際収支といったその他の重要な経済変数と、どこでどのように関わり合っているかを理解することはできない。金融とその他の経済活動との関係を捉えるためには、「理論」という道具がいる。すなわち、理論という道具を使って、金融現象が他の経済活動とどのように絡み合っているのかを明らかにしようとするのが金融論である。したがって、ミクロ・マクロ経済学の基礎的知識を前提とする。

金融の分野では、実際の金融制度や金融市場の仕組みに関する知識が不可欠であるが、この講義では、そうした実際の知識と理論の連携をはかりながら、現実の金融諸問題について理解を深めることを目的としている。

【講義計画】 以下の順で講義を行う。金融論Ⅰでは、このうち第1章から第5章までを扱う予定。金融論Ⅱでは、第3部以下を取り上げる。

第1部 経済活動と金融

第1章 金融とは何か——イントロダクション——

第2章 経済成長と金融資産の蓄積

第2部 経済主体の金融行動

第3章 家計の金融行動

第4章 企業の金融行動

第3部 金融機関とその行動

第5章 金融機関

第6章 金融仲介機関の行動

第7章 中央銀行の行動——セントラル・バンキング——

第4部 金融市場と支出および生産

第8章 マクロ経済と金融市場

第9章 金融政策

第10章 カレント・トピックス

【評価方法】 授業中に適宜行なう（10分程度の）小テスト、レポートおよび定期試験の結果を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。参考書として以下のものを挙げておく。

1. 千田純一・梶山孝金編『現代金融入門（中央経済社、1993）
2. 鈴木淑夫編『実践ゼミナール 日本の金融と銀行』（第2版）（東洋経済新報社、1989）
3. 鈴木淑夫『現代日本金融論』（東洋経済新報社、1974）
4. 堀内昭義『金融論』（東京大学出版会、1990）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51681 51683	公共経済学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	加 藤 尚 史
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 公共経済学の基礎的な概念について解説する。

【講義計画】 不完全競争と公共財、外部性、所得分配と公共選択を採り上げることにしたい。

【評価方法】 定期試験の成績に出席状況を加味する。

【テキスト】 特定しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51685 51687	産業組織論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	上 田 薫
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 製品差別化、流通系列化、マーケティング戦略など、現実の企業行動を理解するための経済分析を紹介・説明する。

【講義計画】 1. 需要と費用の諸概念
2. 市場構造と企業間競争
3. マーケティング戦略
4. 製品差別化
5. 戦略的行動
6. 流通と取引慣行

【評価方法】 定期試験の成績で評価する。

【テキスト】 丸山雅祥・成生達彦著「現代のミクロ経済学」創文社、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51691	社会保障論 A	選	3・4	2	前期	大 谷 津 晴 夫
他の科目 との関連	公共経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、労働法、仕事の経済学Ⅰ・Ⅱ			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 社会保障の歴史と理論

【講義内容】 前半で社会保障の意義と歴史的成立過程を講義し、後半では社会保障の需給メカニズムを取り上げ、福祉国家理論にも論及する。

【講義計画】 1. 社会保障の意義
2. 社会保障の諸制度
3. 社会保障の歴史
4. 救済法の歴史
5. 社会保険の歴史
6. 福祉国家の成立
7. 社会保障の需要と供給
8. 市場の失敗と政府の役割
9. 政治システムの機能と社会保障
10. 福祉国家の諸問題

【評価方法】 定期試験の成績にしたがって評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51693	社会保障論 B	選	3・4	2	後期	大 谷 津 晴 夫
他の科目 との関連	公共経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、労働法、仕事の経済学Ⅰ・Ⅱ			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 社会保障の諸制度

【講義内容】 社会保障の諸制度を取り上げて具体的に解説する。年金と医療が中心になる。

- 【講義計画】
1. 社会保障の範囲
 2. 社会保障の諸制度
 3. 生活保護制度
 4. 医療保障(1)
 5. 医療保障(2)
 6. 医療保障の諸問題
 7. 年金制度(1)
 8. 年金制度(2)
 9. 年金制度の諸問題
 10. 高齢化社会の福祉サービス制度

【評価方法】 定期試験の成績にしたがって評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51701 51702	現代産業事情（損害保険事情）	選	3・4	各2	前期 後期	田 形 博 之
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目71801・71802「現代産業論（損害保険論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51703 51704	現代産業事情（総合商社事情）	選	3・4	各2	前期 後期	松 井 清 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目71803・71804「現代産業論（総合商社論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51705 51706	現代産業事情（自動車産業事情）	選	3・4	各2	前期 後期	願 興 寺 胎 之
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目71805・71806「現代産業論（自動車産業論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51707 51708	現代産業事情（電機産業事情）	選	3・4	各2	前期 後期	三 田 良 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目71807・71808「現代産業論（電子・電機産業論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51709 51710	現代産業事情（都市銀行事情）	選	3・4	各2	前期 後期	高 木 夏 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目71809・71810「現代産業論（都市銀行論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51711 51713	国際経済学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	山 田 正 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 モノやサービスの輸出入、外国との資金の貸借等、国境を越える種々の経済取引を対象として、それらに固有な原因や仕組み、そしてそれらの経済効果を明らかにし、そうした国際経済取引への政府の介入についても講述する。

【講義計画】 国際貿易、貿易政策、そして国際資本移動を主要テーマとして取り上げ、以下の各章の前半を「国際経済学Ⅰ」、後半を「国際経済学Ⅱ」として、現実の経済にも触れながら講義をする。

1. 比較優位の原理
2. 比較優位と生産要素
3. 貿易利益と交易条件
4. 保護貿易政策
5. 国際資本移動
6. 国民所得と経常収支

【評価方法】 定期試験の結果だけで評価する。

【テキスト】 使用せず。適宜、必要な文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51715 51717	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	足 立 文 彦
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 アジアの経済開発と日本

【講義内容】 第二次大戦後半世紀の間に、アジアの国々は、植民地からの独立。南北問題の克服・社会主義経済の挫折と改革開放など、多様な開発経験を積んできた。

本講義では、「開発の究極目的は人間の幸福である。」という立場から、アジア諸国の経済社会開発のための努力を評価し、必要に応じて日本の経験や日本との関係についても言及する予定である。

- 【講義計画】
1. アジア経済の多様性
 2. 人口転換
 3. 農業近代化への道
 4. 工業化
 5. 工業雇用と都市化
 6. 拡大する外国貿易
 7. 直接投資と援助
 8. 人的資源の開発
 9. 政府と企業
 10. 東アジア経済発展の新動態

【評価方法】 定期試験および出席評価を兼ねた小テスト等。

【テキスト】 渡辺利夫・足立文彦・文大字著『図説アジア経済・第2版』（日本評論社、1997年）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51721 51723	国際金融論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	吉 本 佳 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 国際金融を題材に、5年後、10年後に役立てるための、論理的思考能力を身につけよう

【講義内容】 ①調整されない貿易黒字・赤字、②過剰に変動する為替レート、③技術革新が進む国際金融市場と変革期を迎えた国際通貨制度、といったテーマについて、“現実の取引や制度”を知り、“自分で考えるのに使える基礎理論”を学び、“論理的にセンスよく考える能力”を身につけましょう。

【講義計画】 第Ⅰ部 国際経済取引と国際経済体制の制度と現実
1. 国際収支表
2. 国際貿易の決済と外国為替市場
3. 自由貿易と国際通貨制度
第Ⅱ部 国際マクロ経済学
1. マクロ経済循環と貯蓄－投資バランス
2. 資産価格の基本的な考え方
3. 国際マクロ経済学の基本モデル（①モデル構築、②ポリシー・ミックス、③問題点）
4. ゲーム理論と国際政策協調
第Ⅲ部 為替レートの理論と現実
1. 為替レートの理論（①購買力平価、②金利平価、③投機と介入、④市場構造と投機）
2. ドル円レートの推移とその要因
3. 為替リスクと為替レート変動の影響
4. 為替レート変動と貿易
第Ⅳ部 国際金融市場の分析
1. 国際的な資産運用と国際金融市場
2. デリバティブズの機能と影響（①先物・先渡、②スワップ、③オプション、④影響）
第Ⅴ部 国際通貨制度の分析
1. 国際通貨制度と基軸通貨の諸条件
2. 変動相場制改革論、EU通貨統合、累積債務問題

【評価方法】 出席点は考慮しません。レポートとテストの合計で評価する予定です。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51731 51732	世界経済事情（中国経済Ⅰ・Ⅱ）	選	3・4	各2	前期 後期	塚 本 隆 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 中国における市場経済をめぐる

【講義内容】 中国経済はシステム転換の中にあり、つまり計画経済システムから市場経済システムに移行中です。そうした市場経済システムがどのようになされているかを中心に講義を進めます。
1978年末の「改革開放」政策が導入され、まず第一に農村・農業改革から始めました。それは人民公社の廃止に伴う生産請負制と郷鎮企業の導入です。そして、第二に都市・工業の改革、つまり企業の自主権、利改税、株式改革などです。そうした改革がもたらしたマイナス面として、インフレ問題、失業問題、さらに腐敗・不正の蔓延問題、そして地域間発展の不均衡と所得格差拡大の問題などです。それにも拘らず、21世紀初頭の中国経済の規模は日本を追い越して、アメリカに迫る勢いです。そうした中国経済の実態・実証分析を中心にする予定です。

【講義計画】 市場経済に伴うキーワードに沿った講義を予定。そのいくつかのキーワードを紹介。1. 国有企業の株式制。2. 国有企業等の企業経営者の経営姿勢。3. 企業改革に伴う社会保障問題。4. 労働者・職員の意識問題。5. 失業問題。6. 女性のリストラ問題。7. 税・財政問題等々。
こうした諸問題を中心に、中国経済の諸課題を講義。

【評価方法】 前期・後期、テスト実施。尚、中国経済関係に関する本の読後感の提出。

【テキスト】 塚本隆敏著『中国の社会変動』（税務経理協会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51741	西洋経済史 I	選	3・4	2	前期	櫻 井 健 吾
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 都市史を中心とした西洋経済史

【講義内容】 序 章：講義案内
第1章 前提としての中世都市：
12世紀におけるヨーロッパの農村と都市の成立
第2章 ヨーロッパ都市の発展（13－18世紀）と19世紀の「開かれた都市」
第3章 中心地論
第4章 工業化、都市化、都市形成
第1節 都市化
第2節 都市形成
第3節 新都市：特にルール地方の都市を中心にして
第5章 都市の生活様式：
「大都市批判」：近代世界をめぐる論争
第6章 都市の生活形態
第1節 都市の家族形態
第2節 都市の労働形態
第7章 都市の空間秩序
郊外化、都市核、シティ、都市の保全

【評価方法】 筆記テストと出欠

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51745	日本経済史 I	選	3・4	2	前期	川 崎 勝
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本経済史では、江戸時代より第二次世界大戦までの時期を対象とし、国際的環境、とりわけ東アジアとの関係を視野におさめながら、近代日本の経済の発展の諸条件とその構造を考える。
日本経済史 I は、前史と、江戸時代から明治十四年政変までを講義する。

【講義計画】 前史。日本社会の形成から織豊政権までの概要。
江戸時代。幕藩体制と鎖国、農業発展と非農業社会、商品経済の展開、特に元禄期以降の経済発展と社会構造の変化を見ていく。
幕末「開港」。国際的環境の変化と開港にともなう国内経済への影響を考える。
明治時代前期。明治初期の経済政策、土地制度の改変、殖産興業、官有物払下問題の意味を探る。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。講義で、参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51747	日本経済史Ⅱ	選	3・4	2	後期	川 崎 勝
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本経済史の全体については、Ⅰを参照。
日本経済史Ⅱは、明治十四年政変後のいわゆる松方財政から太平洋戦争への道にいたる時期を講義する。

【講義計画】 松方財政から第一次世界大戦へ。大隈財政と松方財政、いわゆる原始的貯蓄、企業勃興、日清・日露戦争と戦後経営、財閥と地主制、植民地の形成。
第一次世界大戦からアジア・太平洋戦争へ。第一次大戦と日本経済、世界経済の新局面と日本、世界大恐慌と日本、大陸進出、戦時経済。
戦後日本経済への見直し。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。講義で、参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51751 51753	経済思想史Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	橋 本 昭 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 古代から現代に至る経済思想の展開

【講義内容】 経済思想史Ⅰでは、経済思想と人間観・社会観とのつながりについて総論的な説明をした後、古代・中世の思想家（哲学者や神学者）の経済観を概説、つづいて重商主義・重農主義・古典派経済学の経済思想を解説、さらに古典派批判としての歴史学派と社会主義思想について概説する。経済思想史Ⅱでは、近代経済学と呼ばれている19世紀末から主流派となる新古典派経済学の形成と展開について語る。

【講義計画】 経済思想史Ⅰ
第1編 経済活動と人間・社会・国家
第2編 19世紀中葉までの経済思想の展開
経済思想史Ⅱ
第1編 近代と経済学
第2編 限界革命の経済学
第3編 マーシャルの経済思想
第4編 ケインズ革命
第5編 現代経済学の諸潮流

【評価方法】 定期試験と提出自由なレポート（レポートは就職活動等で講義出席が不可能な学生向け、詳しくは第1回の講義時間中に説明。）

【テキスト】 橋本昭一著『近代経済学の形成と展開』（昭和堂）参考文献はプリント配布の予定。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51755 51757	経済倫理学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	橋 本 昭 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 人間の経済活動と制度

【講義内容】 近代以降の経済活動は自由主義・功利主義といった価値観によって支えられているが、その積極面を解説するとともに、現代経済が抱えている幾つもの問題は、その価値観だけでは解決不可能であることを示し、代替案を模索する。

【講義計画】 1) イギリス功利主義と経済制度の変化
2) ヨーロッパにおける自由主義の展開
以上 I
3) カトリック社会理論の展開
4) 現代日本経済がかかえる諸問題とその背景
5) 制度の経済学と経済倫理
以上 II

【評価方法】 定期試験

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51765 51767	経済学史Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学の生成と発展

【講義内容】 経済学というものが何時生まれ、その後どのように発展して来たかを探る。アダム・スミスから J・M・ケインズに至る経済理論の歴史を中心に講ずる予定。

【講義計画】 次の項目で講じる。
1) 何故、経済学史を学ぶのか
2) 古典派以前の経済学
3) アダム・スミスの経済学
4) マルサスの経済学
5) リカードウの経済学
6) 「限界革命」の経済学
7) マーシャルの経済学
8) J・M・ケインズの経済学
9) ケインズ以後の経済学

【評価方法】 定期試験の結果と適宜行う小テスト・レポートを総合的に考慮して評価する。

【参 考 書】 ①フィリス・ディーン著・中矢俊博他訳『経済認識の歩み』（名古屋大学出版会、1995年）
②中矢俊博『ケンブリッジ経済学研究』（同文館、1997年）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51801 51803	会計原理Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	飯 田 穆
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 企業会計は企業行動の帰結を会計的測定手法によって測定し、社会に報告する。測定対象となる企業行動の帰結とはどのような性質をもつのか、会計的測定手法とはどのようなメカニズムをもつのか、社会への会計報告とはどのような意味内容をもつのか、を理解することが課題である。

【講義計画】 1. 企業と社会との関連
2. 会計的取引の意味と内容
3. 複式簿記の原理
4. 会計理論の枠組み
5. 会計的評価の構造
6. 会計情報開示制度

【評価方法】 試験

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51841	民法	選	2～4	4	通年	松 倉 耕 作
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 民法は日常生活に最も密接な関連をもった法律である。民法を大別すると、財産法と家族法とに分けることができる。

財産法の例をいえば、将来マンションを購入する場合に、銀行から借金をし、担保（抵当権）を設定するでしょう。このような場合の法律関係を扱います。その他に、交通事故や借地借家の問題も民法の対象となります。

他方、家族法の例としては、離婚や親子関係、さらには相続などがこれに含まれます。

【評価方法】 原則として、前期後期のテストを平均するが、いずれかが優れていれば合格する場合もある。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51845	商法	選	3・4	4	通年	田 中 裕 明
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 本講義では、「会社法」を中心に講述する。総論として、商法を企業法としてとらえる立場から、商法にはどのような特色が認められるか、特に民法との相違はどのようなものであるかを、まず明らかにする。そして商法総則の部分についても、ここで取り上げる。次いで各論として以下の項目について講述する（会社法については、株式会社を中心に講述する）。

【講義計画】 会社法
 (1)会社制度
 (2)株式会社の特色
 (3)株式制度、株主の権利
 (4)株式会社の機関
 ①株主総会
 ②取締役、取締役会、代表取締役
 ③監査役
 講義には必ず「六法」を持参すること（平成9年改正商法に対応できる最新版の「六法」が望ましい）。

【評価方法】 評価については、前期と学年末実施の試験成績をもって総合的に評価する。

【テキスト】（参考書……加藤良三編著『企業法総論（三訂版）』（中央経済社）
 西尾幸夫・国友順市編著『商法Ⅱ—株式会社—』（嵯峨野書院）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51851	経済法	選	3・4	4	通年	田 中 裕 明
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 経済法総論として、経済法とは何か、民・商法とはどのような関係に立つかについて言及し、経済法の位置付けを明らかにする。次に各論として独占禁止法を対象に、その三本柱とされる「私的独占の禁止」、「不当な取引制限の禁止」および「不正な取引方法の禁止」について論述する。

- 【講義計画】 1. 総論
経済秩序と経済法
2. 各論
(1)独占禁止法の目的と基礎概念
(2)私的独占の禁止
(3)企業結合規制
(4)不当な取引制限の禁止
(5)不公正な取引方法の禁止
以上のテーマを中心に講述する。適宜、審判決例の紹介を通じて、講義の肉付けをする。

【評価方法】 前期・学年末共試験を行い、総合的に評価する。

【テキスト】 根岸哲・杉浦市郎編『経済法』（法律文化社）
厚谷他編『独禁法審決・判例百選（第五版）』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51855	労働法	選	3・4	4	通年	唐 津 博
他の科目との関連					他学科履修可	重複履修不可

【講義内容】 法学部開講科目81551「労働法」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51861	行政法	選	3・4	4	通年	紙 野 健 二
他の科目との関連	他の法律学関連科目を履修すること。				他学科履修可	重複履修不可

【講義内容】 今日、新聞やテレビで問題になっている行政改革の問題、環境問題や贈収賄事件など、行政に関係しない問題はないといっていいほど、行政に関する情報はあふれている。ところが、行政法は、法律学科目の中でも難解といわれており、勉強しにくいものの一つである。それは、主に実務家や学者のみが用いる一般の聞き慣れない業界用語や複雑な仕組みによるものであるが、法制度や運用を規律している基本原則の成り立ちやそのあり方を理解すればさほどのことはない。
本講義は、行政をめぐる紛争とはどのようなものがあるか、および80年代以降盛んにいわれている行政改革とは何か等の問題にふれたうえで上記のような観点から行政とこれを規律する法との関係を論じる。

【講義計画】 途中で迷い道に入り込むことを予定に入れつつ、年間の計画を立てれば以下の通りである。
1. 身の回りの行政現象
2. 行政に関連する学問領域
3. 行政の発展と現代行政
4. 行政と法律学
5. 行政法の体系
6. 法律の仕組みと理論
7. 紛争解決のルール

【評価方法】 試験のみで評価する。

【テキスト】 室井 力編『現代行政法入門(1)』法律文化社 第4版